

令和5年 新年の挨拶

国際局長 池谷 義之

日夜安全運航に従事している組合員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年の定期全国大会で中央執行委員に選出され、再び国際局（外航部、国際部）を担当いたします。引き続き宜しくお願いたします。

国際局では、外航海運を取り巻く環境変化に伴い多くの課題があり、そのいずれも重要なものがあります。

昨年の定期全国大会で決定致しました活動方針（国際・外航部門）では、海の安全、外航日本人船員の確保・育成、国際連帯運動を柱として、引き続き活動を進めていく事が確認されました。

2020年から世界中で猛威を振った新型コロナウイルス感染症は、国の内外を問わずさまざまな産業に影響を及ぼし、各国の水際対策に伴うサプライチェーンの分断等により外航海運産業も大きく影響を受けてきました。

特に船舶の運航に関しては、かつて経験したことのない規模での船員交代問題や船内感染防止策、船内での感染者発生時における対応など、多大な現場負担を強いられる状況となり、これらへの対応を迫られることとなりました。

新型コロナウイルスの発生から3年が経過し、ワクチン接種率の向上等に伴う感染者数の減少や重症化率の低下により、欧米をはじめとする各国の入国制限や移動制限は緩和され、経済の回復に向けて国際的な人流は回復傾向にあります。新たな変異株の発生への不安は未だ払拭されていない状況にもあります。

このような環境の下、長期乗船者の交代問題に関しては、IMOなどの国際機関やITFまた船社の努力により、ピーク時に比べ解消されてきていますが、今もなお多くの船員が雇用契約期間を超過した長期乗船を余儀なくされています。

また乗船期間中においては、入港先の水際対策などにより貴重なリフレッシュの機会でもある上陸や家族呼び寄せ等の権利も履行できない状況が続いており、環境改善を求める声が寄せられています。

わが国においても、国際物流の維持に重要な役割を担っている船員が安心して就業できる環境の整備が急務となっています。引き続き、労働協約に定める乗船期間を遵守させる取り組みと併せ、乗船中における組合員の権利を阻害する過度な感染予防措置の緩和等に取り組まなければなりません。

一方、就航航路によっては、依然として予断を許さない状況が続いている武装強盗事件や誘拐事案など海賊等事案への対応、中東地域の情勢変化や紛争状態にある海域への対応など、海の安全を求める活動も重要となっています。

また日本商船隊に配乗されている船員の98%は外国人船員であり、運航要員の大部分を外国人に依存しています。少子高齢化の時代において日本経済・国民生活安定のため、外航日本人船員を確保・育成することの重要性を踏まえ、国主導による外航日本人船員確保・育成策を推し進めていかなければなりません。

1月6日からは、今年の協約改定交渉に向け、要求案策定に向けた大衆討議期間となります。労働条件の改善や労働環境の改善など、皆様のご意見をお寄せ下さい。

結びとなりますが、今年一年の皆様方のご健勝と各船のご安航、ご家族のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

「海員だより」